

## 全校朝会の話（9月7日）

手をさしのべること ～中学生の主張東京大会・中学生の作文から～

東京都の中学生が書いた作文を紹介します。

ある夏の日のことです。私はテニスの試合帰りでバスに乗っていました。そのバスはとても乗客が多く混雑していました。私は最後列の一番奥に、ラケットを入れる大きな鞆を持って座っていました。通路は乗客でふさがっているし、もちろん隣にも乗客が座っていたので、私は降車する停留所が近づくにつれ、「降りられるかな。」と不安な気持ちになっていました。そして目的の停留所に着き、席を立ったのですが、やはり鞆が大きくて通路に出ることができません。するとそれに気付いた隣のおじいさんが

「あ、ちょっと待っててね。よいしょっ。」

と言って私の鞆を通路に出してくださいました。私はお礼を言って通路に出たのですが、人が多くてどうしてもバスのドアまでたどりつけません。すると運転手が私に気付かず、バスのドアを閉めてしまいました。私が困っていると、私の隣に立っていた男性の方が「降ります！！」

と私の代わりに言ってくださったのです。運転手はそれに気づき、もう一度ドアを開けてくださいました。そして通路に立っている方々も、私と鞆が通れるように大きく道を開けてくださり、私はドアにたどり着くことができました。私はうれしくなってバスを降りる際「ありがとうございました！！」

と車内に向けてお礼の言葉を言いました。心が高ぶって言わずにはいられなかったのです。すると、一人の乗客の方が拍手をしたのに続き、何人かの乗客の方が拍手をしてくださいました。私はとてもうれしくて、バスを降りた後もずっと晴れやかな気持ちでいることができました。

私が体験したのは、バスの中での小さな出来事です。しかし、自分でも驚くほど今も心に残っています。あの時、私は人の思いやりや優しさとはこういうものなのだなあと感じました。困っている人にふと手をさしのべること。そうすることで、目には見えない、何かあたたかく優しいものが心に生まれるのです。それは助けてもらった人だけではなく、助けた人も、その周りにいた人さえもあたたかく優しい気持ちにしてしまう、いわば魔法のようなもので

あると私わたしは思おもいます。

そしてもう一つ気付きづいたことがあります。それは、思おもいやりや優やさしきの行こう為いは連鎖れんさするとい  
うことです。現げんに私わたしはあたいけんの体たい験けんをしてから、自じ分ぶんも人ひとを思おもいやり助たすけられるようになりた  
いと思おもうようになりました。人ひとを思おもいやり助たすけるチャンスを日にち常生活じょうせいかつの身み近じかなところ  
にいくらでもあります。「助たすける」と言いうと少すこし大おおげさな気きがしますが、ほんの少すこし「手てをさし  
のべる」だけでいいのです。例たとえば、母親ははおやが忙いそがしそうだったら家事かじを手伝てつだったり、電でん車しゃやバ  
スでお年寄としよりや妊婦にんぶさんに席せきを譲ゆずったりすることです。どんちいな小ひとさなこ  
とでも人ひとに親切しんせつにすることができたら、温あたかい思おもいやりの輪わはどこま  
でも広ひろがっていくのではないで  
しょうか。

今いま、世間せけんでは若者わかもののマナー違いはん反などの行こう為いが問もん題だいとなっ  
ています。今いまの私わたしたちの世代せだいが大人おとな  
になっなかて、バスの中なかであじょうきようのような状じょう況きようになっときた時とき、私わたしたちは皆みなで困こまっ  
ている人ひとを助たすけること  
ができるでしかならょうか。必かならずしもそうと  
は言いえなわたしいと私わたしは思おもいます。私わたしは今  
回こんかいの体たい験けんで、自じ分ぶん  
より上うえの世代せだいの方かた々から思おもいやりを学まなびました。だから今  
度こんどは私わたしたちが、思おもいやりの連鎖れんさの始  
まりをつくって、同世代どうせだいや下したの世代せだいの人ひとに思おもいやりや優やさし  
きを教おしえられるようになれたらいい  
と考かんがえます。これは私わたしの大おほきな目もく標ひょうでもあ  
ります。優やさしきが優やさしきを呼よんで、日に本全体ほんぜんたいが温  
かい気持きもちになれひるような日ひが来くることを祈いのり、自じ分ぶんもそれに向むけて最大限さいだいげんの努どりよく力りきをしていく  
決けつ意いです。

### 【連鎖れんさの意い味み】

つながった鎖くさり（くさり）

つらなり つづくこと

もののつながり

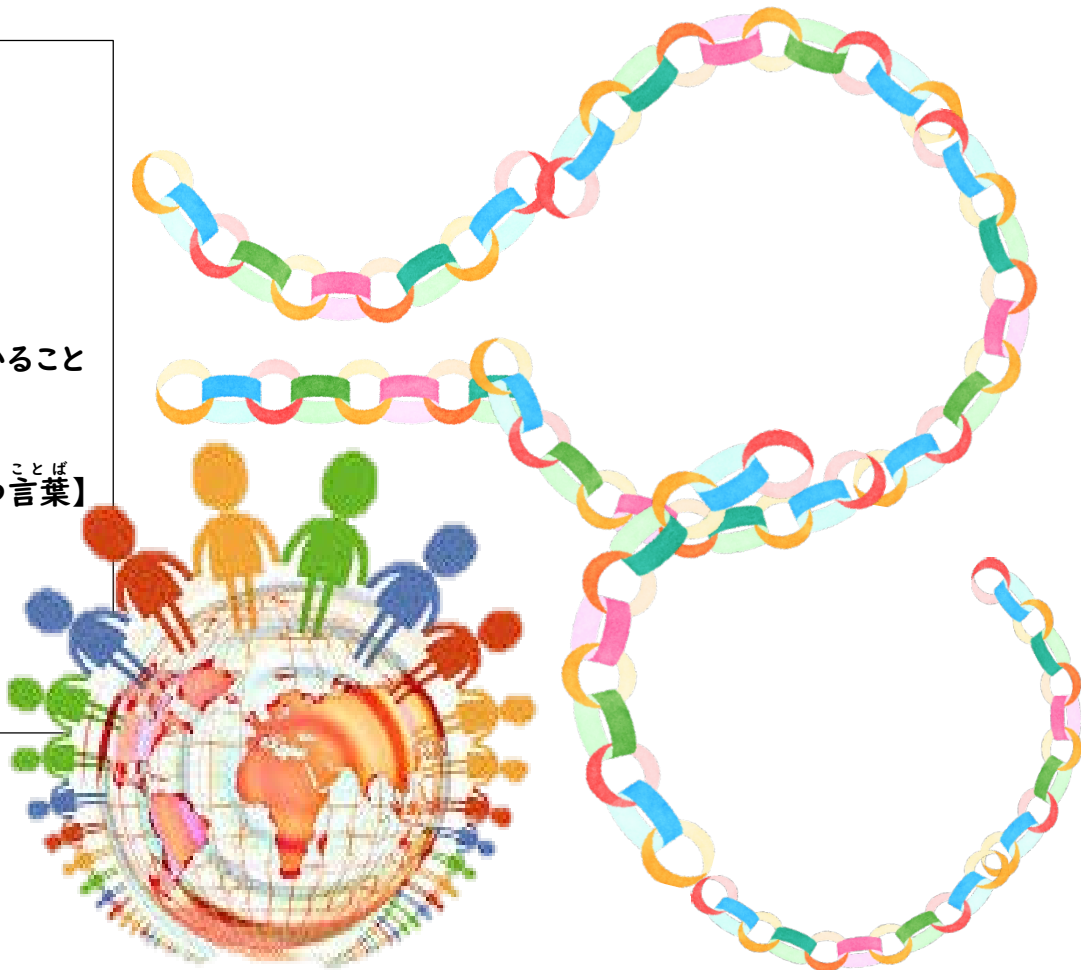
互たがにかかわりあっていること

### 【連鎖れんさに似た意い味みをもつ言ことば】

結むすびつき

関かん係けい

つながり



「思いやりや優しさは連鎖する」と作文を書いた中学生は感じています。日本人は世界でも誇れるマナーの良さや人を思う優しさをもった国民だと思います。サッカーワールドカップでゴミを拾い会場をきれいにして帰る日本人、電車に挟まれた人を助けようと見ず知らずの人がたくさん集まり協力して電車を傾け困っている人を助けた日本人、東日本大震災では誰もが不安感じているのに争いをせずに救援物資配給を並んで待つ日本人のことが、世界で「素晴らしい」と話題になったこともありました。きっと、そこには、「きれいにしよう」「助けよう」「正しいことを大切にしよう」と声を発した連鎖の始まりの人がいたのでしょう。そして、<sup>あたた</sup>かい <sup>おも</sup>いよりの <sup>わ</sup>輪はどんどん <sup>ひろ</sup>がっていったのです。

一方で、困っている人・悲しい思いをしている人がいても見て見ぬふりをしたり、正しくないことがわかっていても一緒につられてしまったり、SNSでの誹謗中傷が人を苦しめたり、新型コロナウイルスに闘う人々に悲しい言葉を発したりするといった連鎖も起きることがあります。思いやりや優しさ、そして正しいと思うことを実行する連鎖を皆さんの学級でも生み出してほしいと願っています。連鎖の始まりは、誰かがやってくれるではなく、駒沢小の子供たち全員の役割です。

「こ・ま・ぎ・わ」の「わ」を大切にしようというお話をしました。「わ」の一つが「輪」です。この「輪」という漢字には「人のつながり」という意味があります。駒沢小の子供たちや、駒沢小の子供たちを支えてくれる多くの人たちがいつも「あたたか」で「やさしい」心でつながっている学校でありたいと思います。そして、みなさん一人一人が、あたたかで心優しいつながりの「輪」の、最初に声をかける人、行動する人になってほしいと願っています。

こ	こころやさしい	→	ともだちを大切にしよう
ま	学びをふかめる	→	かんがえよう つたえよう 表現しよう
ざ	最善をつくす	→	チャレンジしよう
わ	“わ”を大切にする	→	“わ” ➡ <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>

わ

車輪

「あたたか」で「やさしい」心をつなげていこう

「あたたか」で「やさしい」ことばをすすんでかけよう

「あたたか」で「やさしい」<sup>こうどう</sup>行動をすすんでしよう